

巣立ちの時

いよいよ明日が第76回卒業証書授与式。33名の卒業生が本校を巣立っていきます。この3年間はまさしくコロナ禍の真只中。入学式から来賓をお招きすることもできず、体育大会はずっと午前中のみ、修学旅行は県内と、数え切れないほどの制約の中でしたが、それぞれが創意工夫しながら学習や行事・部活動等に精一杯取り組み、立派に成長してくれました。

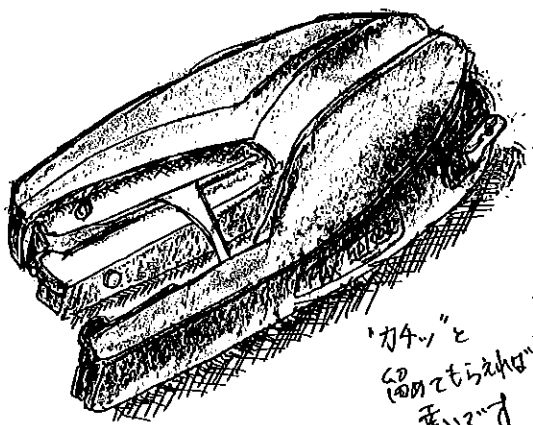
その頑張る姿を見てきた1・2年生。卒業生に対して憧れや尊敬の思いを深めていたのは間違いのないと思います。その思いが、式歌の練習に表れていました。昼休み、耳をすませば・・・ではありませんが、外で草むしりをしている

と、校舎から歌声が・・・これは、先生が計画したものではなく、2年生が中心となって自発的に始めたもの。リーダーらしき生徒の声がしたかと思うと、次の瞬間、大きな歌声が響き渡っていました。聞いていて、心から「素晴らしい、ありがとう!」と思った次第です。

明日の卒業証書授与式は、4年ぶりに来賓をお招きして実施いたします。最後の最後に、コロナ禍以前の形に戻すことができたこと自体が“有終の美”であると思っています。明日、卒業生の堂々とした姿と体育館に響き渡る歌声で、令和4年度の“有終の美”を飾ってくれると確信しています。



心に留める・・・



私はいつも「言葉は文化」だと思っています。今年度、本校のキーワードに掲げたのが“感動、感謝”、この1年間、生徒もこのキーワードを意識してくれたと思っています。上に記載した在校生の行動もまさしくそれですが、この1年を振り返ると、多くの場面で“感動、感謝”に満ち溢れていたと思っています。ところで、“感動、感謝”を表す言葉は・・・と問われれば、多くの人が「ありがとう」を挙げるかと思っています。で、ふと私が疑問に思ったことが“感謝”の謝“の文字。これには

”お礼をいう“という意味がありますが、あと一つ意味があります。もうおわかりですね。そう、”あやまる“です。この2つの意味は相反するようですが、よくよく考えると、表裏一体であると思います。誰しもそうだと思いますが、私は生徒たちに『「ありがとう」と「ごめんなさい」が言える人になってほしい』という願いがあります。家庭でも社会生活においても、この素直な気持ちと言動は欠かすことのできないものなのです。

あらためてこの1年間、私から生徒のみなさんにお礼を言いたい。「多くの“感動、感謝”をありがとう。」そして、願いがあります。『「ありがとう」と「ごめんなさい」が素直に言える大人になってください。』ぜひ心に留めてほしいと思います。